

全日本曲技飛行競技会

ジャッジスクール 2013(1)

第3回全日本曲技飛行競技会を振り返って

米国 IAC 曲技飛行公認審判員 高木 雄一



●第3回全日本曲技飛行競技会を振り返って

昨年10月6日から8日の3日間、全日本曲技飛行競技会がふくしまスカイパークで開催されました。過去2回の競技会において、安全を第一にし、また競技として公正な結果を記録として残すことができたことは、次の試みへ期待できるものでした。そして第3回となる昨年、プライマリー、スポーツマンに続き、新たなカテゴリーであるインターミディエイトカテゴリーを新たに設け、大きな一歩を歩むこととなりました。



ジャッジ要員の育成が課題

●ジャッジスクールへの取り組み

競技者の技量が向上し、さらに高度な曲技飛行を可能にする競技機、Pitts S-2Bを所有者のご好意で提供していただいたことで、インターミディエイトの準備は整いました。次に必要なことは、複雑なフィギュアの判定を可能にするジャッジの育成です。競技者としてインターミディエイトに参加する上で、1つの壁となるものにスナップロールがありますが、ジャッジも同様に、スナップロールの判定は経験を要します。

スナップロールは、通常のエルロンロール(スローロール)と異なり、判定に用いるいくつかの要素をわずかな時間内で判定しなくてはなりません。今年度のジャッジスクールでは、このスナップロールなど注意を要するフィギュアを記録した動画を用意するなどして、内容の充実を図ります。すでに、さらに上級カテゴリーであるアドバンスドカテゴリーの開催を希望する声もあり、今後がとても楽しみです。



第3回全日本曲技飛行競技会の参加機体

●3人1組でのジャッジング

十分な数のジャッジ要員を確保することも大きな課題でした。スポーツマンやプライマリーではシークエンスの内容も比較的簡素で、演技中の時間的余裕があります。ほぼ全員が同じノンシークエンスを飛行するため、ジャッジ、アシスタントジャッジがレコーダーも兼任しての2人1組でもジャッジングが可能でした。

しかし、インターミディエイトではフィギュアの種類も増え、1つのフィギュア内に複数のロールコンポーネントが加わるなど複雑になり、素早い

判定と採点が求められます。ジャッジは手にしたシーケンスカードに目を落とすことなく飛行を判定することになり、シーケンスを読み上げるアシスタントジャッジと、記録を担当するレコーダーの、3人1組の体制が必須です。採点結果の信頼性を上げるため、少なくとも5組のジャッジチームを目標としてしたので、総計15人の確保は最後まで課題でした。



競技会前日のジャッジスクール

この競技会の経験から、次回はジャッジとしての活動を期待できる方々も多く、今年も充実したジャッジチームを構成することが可能と思います。安定してジャッジ要員を確保できること、またジャッジの訓練を定期的に行える環境を整えることも今後解決しなくてはなりません。3日間、ジャッジラインで活動していただいた皆様には、この場を借りてお礼を申し上げます。

●セーフティーパイロットとしての参加

競技会に参加するためには、必ずしも単独飛行である必要はありません。複座型の競技機を選択し、離着陸をセーフティパイロットに任せ、競技者は競技飛行に専念するという選択肢もあります。IACではインターミディエイト以下のカテゴリで認められた方式で、尾輪式飛行機の取り扱いに慣れていない方の参加や、保険の問題を解決するためなどに用いられます。

当初の私は、チーフジャッジとして競技会に参加する予定でしたが、急遽 Pitts S-2B のセーフティパイロットとして、競技者の方々と一緒にすることになりました。これは Pitts Special 全て

に共通することですが、その高い曲技飛行性能を獲得した反面、離着陸の難易度が高い飛行機となってしまったことは否めません。競技会を安全に終わるという目標は何よりも大切にするべきで、私は競技会期間中の離陸と着陸時の操縦と、競技飛行中の安全確認を担当しました。今年は競技者の皆様に、離着陸を含めた全ての飛行を行っていただけるよう、離着陸訓練も内容に加えたいと考えています。

Pitts Special の離着陸は、他の尾輪式飛行機に比べ難易度が高いという評判ですが、私自身も Pitts での飛行を始めたころは不安を覚えながら飛行でした。しかし、Pitts も飛行機である以上、多少とはいえ滑空性能もあり、地面効果も十分に備わっています。素直な操縦性能は操縦者の入力に瞬時に応答し、また必要な推力が即座に得られるこの飛行機は、離着陸時に操縦者の大きな見方です。尾輪式飛行機に共通する注意点である、地上滑走時の安定性の維持、そして安定性が正から負に変化する時点の見極めと対処法などを伝えていけたらと思います。



Pitts Special の着陸

●今年の取り組み

セーフティパイロットとしての飛行を通して、通常の曲技飛行訓練と並行し、インストラクターの育成の必要性も実感しました。

日本では近く、新たな Extra 300L が導入されるというお話もあり、訓練環境を整えることは、今年目標の一つでしょう。

安全で、質の高い訓練を提供できるよう、確かな技術を持った曲技飛行士の育成に携わりたいと思います。